

1: 【The Black Note】第9話 決別の朝に

2:

3: ■プレ・本編

4: □シーン・シェイラルの泣き。

5: シェイラル「……全てを知った後、シリアくんはどうするつもりでしょうか……。互いに心が通
6: わないままに離れ離れになってしまいますか……。それとも、皆をつなぎ止めますか
7: ……？ いまのシリアくんなら、きっと、皆をつなぎ止めることを出来るはずです。皆に
8: 好かれたシリアくんなら、散り散りになるうとする皆をもう一度、出会わせることが出来る
9: はず……。どんなに時間がかかったとしても、他人を思いやることの出来るシリアくん
10: なら。どうでしょう、レルシア？」

11: レルシア「そうですね、お父さん。だからこそ、精霊王さまはシリアくんをここに……」

12: シェイラル「少なくとも、わたしは信じています」

13:

14: ■オープニング

15: セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の
16: 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表
17: に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの
18: 真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実——」

19:

20: ■タイトルコール

21: デュレ「The Black Note 第9話 決別の朝に」

22:

23: ■本編

24: □別れの朝が来る。

25: ・レルシアの家、昨日から明けて朝。
26: ・静かで、耳がキーンとなるようなイメージで。

27:

28: シリア「……ゼフィ？ ……ゼフィ、いないの ねえ。……久須那？ マリス？ レイヴン？

29: ……迷夢う～～。どこに行っちゃったの？ ——あっ……完成、したんだ……」

30:

31: ・シリア、キャンバスを発見。

32:

33: シリア「……あれ、はじっこに何か書いてある。——再び、この瞬間が訪れることを願って……。

34: この、瞬間？ ——この瞬間……。この瞬間って、そんな。——そう言うことなの？ レ
35: イヴン」

36:

37: SE：後退のような物音。

38:

39: シリア「そんなのイヤだよ！ みんな折角、仲良くなれたのに、どうして！」

40:

41: SE：ドアを開けられなくて、窓かなんかから外へ

42:

43: シリア「レルシアに知らせなくちゃ……。レルシアならきっと、何とかしてくれる」

44:

45: SE：ひたすら駆ける。

46: SE：身体をドアにぶつける荒々しいノック。

47:

48: シェイラル「誰ですか？ 騒々しい。——あれ？」

49: シリア「おじさん！ レルシアは？ レルシアはどこにいるの？」

50: シェイラル「……シリアくんでしたか。どうしました？ 泣きそうな顔をして」

51: シリア「だって、みんながいなくなっちゃったんだもの。ケンカしてどこかに……。だから、レ
52: ルシアに、レルシアに、レルシアならきっと、助けてくれる」

53:

54: SE：シリアを抱き上げる。

55:

56: シェイラル「そうですね……。……思っていたより、早かったですね……」

57: シリア「え……。知っていたの？」

58: シェイラル「こう言ったら、シリアくんは怒るのかもしれないね。でも、知っていました。マ
59: リスの願いも、迷夢の思いも。いつかきっとこうなることも……」

60: シリア「だったら、どうして……？」

61: シェイラル「わたしたちがマリスや迷夢を止められると思いますか？」

62: シリア「……うん」

63: シェイラル「正直ですね……。わたしたちに出来るのはまわりへの被害を最小限にとどめること
64: だけです。レルシアを呼んで行きましょう。どうなるにせよ、ここで指をくわえて待つて
65: るだけという訳にはいきません」

66:

67: SE：シェイラル歩く。

68:

69: シリア「ぐず……。父上……。助けて……。助けにきてよぉ！」

70:

71: //場面チェンジ。

72: ・父上・サスケ、雪原を駆けている真っ最中。

73: ・そして、呼び声に気が付いて、立ち止まる。

74:

75: サスケ「……。オレを呼んだのは……。シリアか……。全く、世話の焼ける……。——しかし、
76: お前が助けを呼ぶのなら、もう……」

77:

78:

79: □迷夢・自分の魔法の最終調整にサブアイテムをあれこれ。

80: SE：ごそごそ。

81:

82: 迷夢「いつも思うけど、古代魔法って、用意するアイテムが多くてヤになっちゃうわねえ。これ
83: でいて、親愛なる光の言霊（ことだま）ちゃんが無反応、無関心だったらあたし、やる気
84: を無くしちゃいそう……。さてと……。これで六芒星（ろくぼうせい）の六つのアイテム
85: の設置は終わった訳だから、これでオーケーかな？ 上手くいけばいいけどな」

86:

87: SE：足音。小さく。

88:

89: ゼフィ「迷夢——」

90: 迷夢「うわっ？ ゼ、ゼフィ？ ど、したのこんなところで。と言うか、何でいるの？ キミの
91: ことだから、もう、絶対に来ないと思っていたのに」

92: ゼフィ「来ないつもりでした。——しかし、久須那がマリスのところに行きましたから、わたし

93: もどここに首を突っ込んでおこうかと思ひまして、時間も無いことですしね」
94: 迷夢「……あれだけ手伝わないからと言ひ放っておいて……、素直じゃないねえ」
95: ゼフィ「迷夢ほどではないと思ひますけど？」
96: 迷夢「あら、言うじゃない。ま、それはそれとして久須那もマリスにはかなわないって判ってる
97: のに、健気だよな？ あたしのところに来たらいいのに？」
98: ゼフィ「久須那がマリスのところに行ったのはあなたのための時間稼ぎでしょう？ マリスに先
99: を越されて天使の世界とこの世界との“通路”を作られると困るんですよ？」
100: 迷夢「まあ、そうね。二つの世界の境界が不安定になっちゃったらおしまい。とは言わないけど。
101: ちょっと厄介だよな。手間がかかるし、今までよりもっと慎重にしくちやならなくなる
102: ものね。で、久須那の考へてゐることは判ったんだけど。ゼフィは何だつて？ そう、レイ
103: ヴンはどうしたの？」
104: ゼフィ「いっぺんに聞かないの。子どもじゃあるまいし。レイヴンは見かけてないけど、あの人
105: はマリスに付いていくんでしょうね。きっと」
106: 迷夢「じゃ、ゼフィは——」
107: ゼフィ「わざわざ言葉に出さなければ判りませんか？」
108: 迷夢「……。うん、ありがとう、ゼフィ」
109: ゼフィ「仕方がないでしょう。どうあつたつて迷夢はやめる気なんてなさそうだし」
110: 迷夢「あははあ。短時間でよくあたしの性格を捉えたね」
111: ゼフィ「それはね、長い間生きてますから。でも、久須那がマリスを足止めしてくれているとは
112: いえ、時間はあまりないですよ」
113: 迷夢「うん、判ってる。だから、とりあえず、急いでやるだけやっしまおうと思つて。後のこ
114: とは……後で考えることにした。——ありがとう、ゼフィ」
115: ゼフィ「お礼を言う相手を間違っています。あなたの提案に異を唱えずに、ひっそりと認めてく
116: れた久須那に伝えるべきでしょうね」
117: 迷夢「そうだね……。ま、けれども、それはあたしの計略が大成功したら言ひに行こうかなと。
118: それはそれとして、もう、古代魔法の下準備は終わったの。あと少しよ」
119: ゼフィ「とにかく、迷夢は呪文を完成させてください。ホントは……気が進まないんだけど……」
120: 迷夢「あはは。ごめんね、ゼフィ。そして、ありがと。きっと、成功するよ」
121: ゼフィ「迷夢がそんなこと言うつて変です。それに恥ずかしいから……。妙に……」
122: 迷夢「あら？ ゼフィつたら。まいいや、ゼフィ、あたしに掴まってくれるかな。ここは魔法の
123: 効力範囲だから、上空に逃げておかないと危ないんだ。一緒に冥界に落ちるならいいけど」
124: ゼフィ「冗談じゃありません」
125: SE: 迷夢、ゼフィを抱えて舞い上がる。
126: SE: サブアイテムのマーカーに光が入る音。
127: 迷夢「さあて、まずはアイテムに……光を灯して……。えい！」
130: ゼフィ「……キレイな六芒星になりましたね」
131: 迷夢「当たり前！ さあ、光に住まう闇の言霊。我が意志に応えよ」
132: SE: 何か腫のようなものが現れる音、ポヒュンとか。
133: 迷夢「——闇に住まう光の言霊は如何に。汝の求むるものと引き替えに差し出すものを示せ」
135: 言霊「汝はそれと引き替えに何を望む？」
136: 迷夢「……。天使の住む世界とこの世界との境界面の修復と強化……」
137: ゼフィ「大丈夫なの？ あれ？ 本物？」（囁き。

139: 迷夢「た、多分——」
140: 言霊「……与えられた範囲では魔力が足りない。完璧な修復は不可能……」
141: 迷夢「無理でもやっつてっ！ そしたら、どれだけ持つの？」
142: 言霊「……。……千年」（面倒くさそうに
143: 迷夢「千年？ それだけの時間を貰えるのなら、きっと、何とかが出来る。……キャリアアウト
144: っ！」
145: SE: 古の魔法が発動する音。
146: □久須那とマリス。
147: ・マリスはエルフの森にある精霊核を探しに行く。それを追う久須那。
148: SE: 久須那とマリスの歩く、飛ぶ音。
149: 久須那「マリス——。マリスっ！ 降りる、話がある」
150: マリス「用があるなら、手短に頼む」
151: 久須那「手短に済むはずがないだろう？」
152: マリス「……そうだな」
153: 久須那「マリス、お前はまた精霊核を利用した過ちを繰り返すつもりでいるのか？」
154: マリス「過ちか……。例え過ちだったとしても、わたしたちはこのままではいられない。なら、
155: 少しでも自分たちの有利にしてもいいと思う。間違っていると思うか？」
156: 久須那「しかし、マリスは知ってるはずだ。ドライアードの、ジーゼの精霊核を壊してしまえば
157: リテールは守護者を失う。判るか。魔物の徘徊する魔性の地に変貌してしまう——」
158: マリス「脅かしても無駄だ、久須那。迷夢がこの二つの世界を完全に二つであることを望むよう
159: に、わたしは二つの世界が互に行き来できるようにすることを望む」
160: 久須那「どうしても、ダメなんだな。——なら、わたしはこれでマリスを止めるしかない」
161: SE: 弓を引く音。
162: マリス「……お前ではわたしには勝てない」
163: 久須那「それはやってみなくては判らないだろ？ 一度、手合わせしてもらいたいと思つていた」
164: マリス「減らず口もそこまで来るとはいたしたものだ。受けて立つ」
165: SE: 久須那、弓を剣に変化させる。
166: SE: 剣と剣が交錯する音。
167: マリス「どうした、久須那。手合わせしたかったのだろう？ ……しかし、選ぶ相手を間違えた
168: な。……身の程を知れ！」
169: 久須那「くっ」
170: マリス「もう、おしまいか」
171: 久須那「ファイアーボルト」
172: SE: ファイアーボルトの音、シールドで反射。
173: マリス「無駄だ！ マジックシールド」
174: 久須那「はあ、はあ」
175: マリス「……もう、やめにしよう。結果は見えてる」

185: 久須那 「いいや。お前が諦めるまで、やめるワケにはいかない」
186:
187: SE: 迷夢が遠くでなんかやってる様子。
188: 久須那 「どうした、マリス。お前の相手はこっちだぞ」
189: マリス 「……あれは何だ？ ……迷夢か。——久須那。裏切っていたんだな？ 迷夢には手を貸
190: し、わたしには刃を向けるのか」
191: 久須那 「迷夢には手を貸してはいない。わたしはマリスを止めただけだ」
192: マリス 「それが迷夢に手を貸していると言うのだ。お前は迷夢の本当の目的を知っているんじや
193: ないのか？」
194: 久須那 「マリスこそ知っているんじやないのか？」
195: マリス 「はあ、お前はわたしが何でも知ってると思ってるようだが……。迷夢が一番知ってるん
196: だ。わたしが何を望み、久須那が何を考え、ゼフィやシリアのことでさえ。迷夢はそう言
197: う奴だ。人の心理を巧みに操る……だから、あいつは“策士”の名を恣にしてるんだ」
198: 久須那 「そうだとすると、マリスより幾らかましだろう？」
199: マリス 「否定はしないな。だが、迷夢のしようとしていることはわたしと同じかそれ以上に危険だ。
200: ……あれは古代魔法だ。口述によってのみ伝えられたあれは……精霊の類と直接触れる魔
201: 法だ……。成功したらいいが、失敗したらシメオンが冥界に落ちるくらいでは済まないぞ」
202: 久須那 「知らないという割には知ってるんじゃないか……」
203: マリス 「それくらいは魔法の波動から判る。……あんなのを使うからには二つの世界をごちゃま
204: ぜにしたくないなんて、綺麗事だけではあるまい？ 目的は何だ？ 答えられないか——。
205: ならば、わたしが確かめに行くっ！」
206: 久須那 「マリスっ！」
207:
208: SE: 久須那、矢を放つ。はじき返される。
209:
210: 久須那 「くそ！」
211:
212:
213: □現代に戻って、パッシュの家。
214:
215: セレス 「え～とお、そうしたら何さ？ 結局、迷夢の目論見は成功し、マリスの画策は失敗した。
216: まずはそこまでのいいのね？」
217: シリア 「ま、そんなところだ」
218: セレス 「過去語りは置いておいて、でえ、でよ？ 今年になって、マリスの氷の封印は解け、ど
219: こかにいっちゃったと思っていた迷夢が生きていて、わたしたちがここに来た。マリスは
220: 天使の住む世界とあたしたちのすむ世界を繋ぐことをまだ諦めていなくて、迷夢はえと、
221: 天使の世界とここの境界を完全に修復することを望んでる。そいで？」
222: デュレ 「そいで、それは聞き聞いてのお楽しみ……なのでしょう、セレス？ とところで、リボ
223: ンちゃん、今になって色々集中してきたのは条件が揃ってきたからですね？」
224: シリア 「正直なところ、オレにはさっぱり判らん」
225: デュレ 「な？ 精霊王さまは予兆を感じるんじゃないんですかっ！」
226: シリア 「……ことさらに自分に関わることはぼやけてよく見えないのさ」
227: デュレ 「それはどういう意味ですか？」
228: シリア 「……どういう意味だろうな。……まあ、落ち着いて全部聞けよ。もうすぐ終わりだ」
229:
230:

231: □過去に戻って、さっきの続き。
232: SE: マリスが空を飛んでくる。
233:
234: マリス 「迷夢っ！」
235: 迷夢 「あら、随分遅かったじゃない、マリス。もう、これでおしまいよ」
236: マリス 「やめる、何をしようとしているのか判ってるのか？」
237: 迷夢 「判ってるよ。あなたの邪魔をしているの」
238: マリス 「何だと？ 今すぐに魔法を解け、そうしたら許してやる」
239: 迷夢 「許すとか許さないとかそう言う問題じゃないよ。ホントは判ってるんでしょう？ 天使の
240: 世界とこの世界との境界が崩壊したらあなたのしようとしていることは無意味になる。けど、
241: むしろ、二つの世界はダブってしまった方がいいのかもしれない」
242: マリス 「ダメだっ！ 一つの空間に二つの世界の物質を押し込むことはできない」
243: 迷夢 「そう、だったら、あたしの正しさが判るでしょう？」
244: マリス 「二つの世界は別々に歩めばいいか。お前は久須那と同じ事を言う。それはそれでいいさ。
245: だが、ここに取り残されたわたしたちはどうする？ このまま苦汁を飲んでると言うのか」
246: 迷夢 「そんなことは言っていないよ。順番を間違えないでと言いたいだけ」
247: マリス 「古代魔法を持ち出したお前にそんなことを言われる筋合いはないな」
248: 迷夢 「でも、今回はあたしの勝ちよ、マリス。悔しかったら、止めてご覧？」
249: マリス 「！ ……今のわたしを挑発するとは言い度胸だな、迷夢——。天空に住まう光の意志よ。
250: 我が右腕に宿り、全てを滅するパワーを体現せよ。光弾！」
251:
252: SE: 光弾
253:
254: 迷夢 「うわ、それはまずい」
255: ゼフィ 「落ち着いて、わたしがいます」
256: 迷夢 「わたしがいますって、どうするのよ？」
257: ゼフィ 「……わたしが聞きたいと言うことを忘れていませんか？ 闇は光の抑止力。その逆もま
258: た真ですが、迷夢より役に立つわよ？」
259: 迷夢 「い、今そんなことで虐めないでよ。ほ、ほら、もう、来ちゃうよ？」
260: ゼフィ 「大丈夫です——。漆黒の闇を統べしもの、シルトよ。氷雪と闇の使者、ゼフィの心に描
261: きし思いに応えよ。空際に飛翔する光の魔力……エネルギーをあまねく次元の彼方に吸引
262: せよ。……サクシオン！」
263:
264: SE: 光弾、吸収される音
265: SE: 激しい衝撃音
266:
267: ゼフィ 「あうっ」
268: マリス 「……。……氷の精霊王、サスケの右腕は伊達ではないか……。初めてだな、こんな事は
269: ……」
270: 迷夢 「だ、大丈夫、ゼフィ？」
271: ゼフィ 「え、ええ、多分。想像以上に魔力が大きくて一時的に反発したようです」
272:
273: SE: 矢が飛んでくる。
274: SE: 久須那が追いついてくるような翼の音。
275:
276: マリス 「……パニッシュ……」

277:
278: SE：矢が虚空にかき消される音。
279:
280: 久須那「マリスには虚仮威しは通用しないか……」
281: マリス「当たり前だ。だが、何故、そこまで、わたしを止めようとする？ 久須那にはわたしを
282: 止めなければならぬ理由などないはずだ！」
283: 久須那「いや、あるさ。精霊狩りを二度までも認める訳にはいかないのだから」
284: マリス「……。シメオンの魔力を集め、それを利用する迷夢と大差ないと思うがな……」
285: 久須那「少なくとも大きな犠牲は出ない」
286: マリス「そうか？ ——大きな犠牲は出ないのかもしれないが、このままではわたしたちは報わ
287: れない。わたしは自分が住むべき世界に戻りたいだけなのだ！」
288:
289: (マリスのセリフの最後と重なる)
290:
291: 迷夢「ううん。マリスの努力は報われているよ。ゆっくり少しずつだけ。変わろうとしてる。
292: けど、マリスがそれに気付こうとしないだけ」
293: マリス「その変化をゆっくり見ている時間はない」
294: 迷夢「どうして？ マリスの望むことは時間が解決してくれるはず」
295: マリス「——そう言う、迷夢は何故急ぐ？」
296: 迷夢「二つの世界の崩壊は待ててくれないよ。特にマリスが二つの世界をくっつけてしまう前に
297: ケリをつけておかないと、手遅れになると思って」
298: マリス「だが、それはまだ、終わってないんだろう？ 古代魔法のはお前の十八番だと思ってる
299: だろうが、わたしも扱えるんだぞ。……ストーリーミングブレイクダウン！」
300:
301: SE：迷夢の魔法が揺らぐ音。
302:
303: 迷夢「やめっ、マリス。そんなことされたら……魔力が暴走する！」
304: ゼフィ「迷夢っ！ 溢れた魔力の半分をこっちに回してください。外に逃がします。早くっ」
305: 迷夢「ダメ。ゼフィには無理」
306: ゼフィ「無理でも早く。あなた一人にも受け止めきれない」
307: 迷夢「ゼフィ、ダメだよ。あなたは大切な友達——。あれは光弾（こうだん）の比じゃないの。
308: マリスが街一つを楽に壊滅できようが、あれほどじゃないのよっ！」
309: ゼフィ「聞き分けなさいっ！」
310: 迷夢「どっちが聞き分けないのよ。ダメったらダメっ！ 都市の潜在的魔力の大きさをゼフィは
311: 知らな過ぎる。これの十分の一だってゼフィには受け流せない！ 黙って、大人しくして
312: なさい。まだ、終わった訳じゃない」
313: ゼフィ「わかった……」
314: 迷夢「闇に住まう光の言霊。虚空に漂いし、シメオンの魔力を停時空間へ移送せよ。——スパー
315: ルフィールドっ！」
316:
317: SE：魔法が何かに引き込まれるような
318:
319: 迷夢「光に住まう闇の言霊！ 根性で何とかしろっ！」
320: 言霊「根性（キョトンとして）……？ 我を邪魔するのは何やつだ？ ……お前か、黒き翼の天使」
321: マリス「だったら、どうした？」
322: 言霊「……我を邪魔するのはいかようか……？」

323: マリス「古に忘れられた名もない精霊のくせに生意気な口をきくな。どんな理由でお前の邪魔を
324: しようとわたしの勝手だ。お前に指図される覚えはない」
325: 言霊「……罪深きものよ。我が怒りを受け取れ！」
326:
327: SE：瞳から光がほとばしる
328:
329: マリス「そんなものは返り討ちにしてくれる。ミラーシールド」
330:
331: SE：ギイイン。反射する音。
332:
333: マリス「——迷夢だな。——正直、ここまで出来るとは思っていなかった」
334: 迷夢「ほめてくれて嬉しいけど、でも、ちょっと、いやあっ。ぜ、ゼフィ。生きてる？」
335: ゼフィ「ま、とりあえず、何とかね……。ただ、もう少し、お淑やかにお願いしたいわ」
336: 迷夢「あはっ！ でも、まだ余裕ありそうよね。……あたしより」
337:
338: ・シリア登場
339:
340: シリア「マリス、迷夢。やめっ！」
341: ゼフィ「シリア……」
342: 迷夢「（真面目に）何をやめると言うのかしら、キミは」
343: シリア「（戸惑ったように）け、ケンカだよ。ケンカはやめてよぉ！」
344: 迷夢「……キミの言うことでも聞けない。もう、やめるつもりはない」
345: シリア「だって、友達でしょう。だったら、仲良くしてよっ」
346: マリス「……シリアのお願いでもそれだけは聞けないな」
347: シリア「マリス、迷夢！」
348: マリス「黙れ。これ以上ぐだぐだ言うなら、お前も消す！ 光弾！」
349:
350: SE：光弾の効果音
351:
352: シリア「ひ……、そんな……、マリス」
353: ゼフィ「シリア！ 下がってなさい」
354: シリア「でも……」
355: マリス「久須那！ 精霊核はダメだと言ったな？ ならば、たった今、迷夢が封じ込めた魔力を
356: 使えば文句はあるまい！ 実際、純粋さが足りないから、どうなるか判らないが、……お
357: 前の大切な精霊核を使わないでいてやるうじゃないか」
358: 久須那「そんなことをする必要はない！」
359: マリス「そうか？ 迷夢の目的を果たせずとも、仮にわたしの目的が果たせないにせよ、お前が
360: ジーゼの精霊核を守ると言う目的は果たせるだろう！」
361: 久須那「……ああ。だが、迷夢はまだ、諦めていないぞ。そうでなければ、迷夢だって魔力を封
362: じ込めるという危険な賭にはでないだろ？」
363: マリス「そんなものはこうしてくれるっ！ ——スパークルアロー！」
364:
365: SE：スパークルアロー！マジックシールド！
366: SE：何か動物の駆けてくる音。
367:
368: 迷夢「うわっ。しまった」

369: 久須那「マジックシールド」
370: 迷夢「そこ、危ない、どいて！ って、オオカミ??」
371: サスケ「黒き翼の天使?」
372: 迷夢「うわちゃっちゃ！ 早く、そこ、どいて。来る、来ちゃう」
373: サスケ「どうした、何をそんなに慌てている?」
374: シリア「ち、父上!」
375: 迷夢「父上え? なぁに、このオオカミ、シリアくんのお父さん?」
376:
377: SE: どかん! シールドにスパークルアローが弾かれる音。
378:
379: サスケ「……冗談だろ。おい」
380: 迷夢「邪魔をしないで」
381: サスケ「邪魔をしに来たんじゃないさ」
382: 迷夢「え?」
383: サスケ「気配を消さずとやりとりを聞いていた。お前のやり方はスマートとは言えないが、
384: ここまでやってしまったなら、最後まで行くほかあるまい? ……マリスは俺とゼフィが
385: 引き受けてやる。お前は魔法に集中しろ」
386: 迷夢「ありがとう……」
387: サスケ「——礼を言われる筋合いはない」
388: レイヴン「お前たちの相手は俺だ。迷夢、犬ころろ」
389: サスケ「……犬ころろとは精霊王も馬鹿にされたものだな」
390: マリス「レイヴン。どこに行っていた」
391: レイヴン「それはこっこの台詞だ、マリス。エルフの森への途中で落ち合おうと言っておいて、
392: 全然来ない。どうなってるのかと思えば、この有様……」
393: マリス「……久須那に邪魔されるとは思ってもいなかったのよ、予定が狂った」
394: レイヴン「そうか、それではやむを得ないな……」
395: サスケ「チャンス……」
396:
397: SE: サスケ、ジャンプ!
398: SE: マリスの背後にくっつく音。
399:
400: レイヴン「! マリスっ! 後ろ!」
401: マリス「何?」
402: サスケ「フローズンピンディング」
403:
404: SE: 氷の魔法、発動
405:
406: マリス「——ふざけたことをしてくれる……、サスケえ!」
407: サスケ「迷夢、ゼフィ、久須那、誰でもいい。やれっ!」
408: 迷夢「サスケ! よけて、キミに当たっちゃう」
409: サスケ「いいから、やれ! この機を逸したらもう次はない。上手くいけば、マリスを封印でき
410: る。イヤ、封印しろ、命令だっ!」
411: シリア「迷夢っ! やめて、父上を……。父上の言うことを聞かないでっ、お願いだから……」
412: 迷夢「……シリア。ごめんね——。目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元
413: を駆け抜ける真実の道しるべ我が前に現せ!」〔深呼吸
414: シリア「迷夢……! 許さないぞ。オレは許さないんだからな」

415: 迷夢「……許してもらわないと必要なんかない。恨むんだったら、恨めばいい」
416: シリア「うあ……。オレにもっと力があればこんなこと、絶対にさせないのに。ゼフィ、どうし
417: て、迷夢を止めないんだよ! 父上はゼフィのっ」
418: ゼフィ「シリア!」
419: シリア「だって、だってっ! 迷夢は父上を……!」
420: ゼフィ「黙りなさい!」
421: 迷夢「……ゼフィ……。助けてくれた恩を仇でしか返せそうにないよ……。出来るだけのこと、
422: やってみる。でも、でも……。マリスだけを狙うのは出来ないよ。あたし、そんなに器用
423: じゃない……」
424:
425: SE: 抱きつく。
426:
427: ゼフィ「わたしはサスケに従う……。何があっても迷夢のせいじゃないよ……」
428: 迷夢「ごめんね、ゼフィ。……開けっ! クラッシュアイズ!」
429:
430: SE: 魔法発動
431:
432: シリア「迷夢う!」
433: マリス「サスケえ、離れる。お前らごときにやられてたまるか」
434:
435: SE: マリス暴れる
436:
437: サスケ「諦めるよ、マリス。オレと一緒にあの世への二人旅と洒落込もうぜ?」
438: マリス「……獣は嫌いだっ!」
439: 久須那「お前は死んだらダメだ! サスケ!」
440:
441: SE: 久須那、サスケを捕まえて引っ張る
442: SE: 血の滴る音
443:
444: 迷夢「スローダウン!」
445: マリス「あああっ! ……久須那あ!」
446: シリア「——! 久須那あ、父上を」
447: サスケ「やめろ。オレが離れたら、魔法が解ける」
448: 久須那「黙れ、死んでまでやる価値はない」
449: 迷夢「久須那、早く。時間が……、これ以上、展開した魔法を遅くするのは無理なんだからねっ」
450: サスケ「オレの生死は自分で決める。誰の指図もうけん!」
451: 久須那「……ゼフィは、シリアはどうする? 特にゼフィはお前がいなければ……」
452: マリス「ふざけるな。貴様らごときに後れをとるわたしではない。——レイヴン」
453: レイヴン「ミラーシールド」
454:
455: SE: ミラーシールド、出現
456:
457: サスケ「久須那、そのシールドを蹴り飛ばせ!」
458: 久須那「蹴り飛ばせて、蹴り飛ばせるのか、それは?」
459: サスケ「もう、面倒くさい。オレがやる」
460: 迷夢「サスケ、それは無茶だ」

09.01.08
TBN09.rtf

461: 久須那「サスケ、やめろっ！」
462:
463: SE: バシン! と激しく。ついでに、シールド飛んでく。
464:
465: サスケ「ぐあああっ。この、クソめ！」
466: レイヴン「マリス、避ける。次のシールドは間に合わないっ」
467: ゼフィ「……サスケの魔法が切れる」
468: マリス「見苦しい、レイヴン。——シールドアップ」
469:
470: SE: シールドの出る音と、クラッシュアイズを弾くような音。
471:
472: マリス「くそっ。ならば、こうするか。スプールシールド」
473:
474: SE: 音が変わる。
475:
476: マリス「転換、スパークルアロー」
477:
478: SE: 矢の飛んでいく音。
479:
480: 迷夢「うぁ」
481: ゼフィ「迷夢、しっかりしなさい。普段なら造作もないはずです」
482: 迷夢「……スパークルシールド」
483:
484: SE: キンキンキンと激しい金属音
485:
486: ゼフィ「ほら、やれば出来るじゃない」
487: サスケ「ゼフィ! もう一度、マリスの動きを封じる。手伝え」
488: ゼフィ「迷夢……。もし、最後まで生き残ったら、シリアのこと、頼みますよ……」
489: 迷夢「う? うん……」
490: サスケ「ゼフィ、こっちに来てくれ。ダブルバインドでいく。でなければ、押さえきれない」
491: ゼフィ「……迷夢、サスケのそばに下ろしてください」
492: 迷夢「判ったよ……」
493: ゼフィ「無茶しすぎです。サスケ……」
494: サスケ「無茶しすぎだと言われてもな。そうしなければ、どうにもならないだろ」
495: ゼフィ「まあ、そうですね。じゃあ、始めますか? サスケ?」
496: サスケ「その前に、久須那は光弾でも、クラッシュアイズでも何でもいい。それより破壊力のある魔法を使い! 迷夢。お前もだ。この状況をどうにかしたいのなら、お前もやれ!」
497: 迷夢・久須那「わかった。天空に住まう光の意志よ。我が右腕に宿り、全てを滅するパワーを体現せよ。光弾!」
498:
499:
500:
501: SE: 久須那、矢を連射。迷夢、光弾を発動。
502:
503: レイヴン「シールドアップ!」
504: 久須那「ダメか!」
505:
506: SE: 何かが久須那の横をかけていく。

09.01.08
TBN09.rtf

507:
508: サスケ「お前はよくやっているさ。気に病むことはない。こいつはオレに任せておけ。——ゼフィ、……先に封印の準備をしておけ」
509:
510:
511: SE: ボン、ボン、ボンと屋根を上っていく。
512:
513: レイヴン「な、何だと?」
514: サスケ「油断は大敵だとどこかで聞いたことはあるだろう?」
515:
516: SE: サスケ、レイヴンの羽根をむしる音。
517:
518: レイヴン「やめるんだ。このっ、獣めっ! ——無意味なことを……!」
519: サスケ「構わんさ。お前の動きを一時的にでも封じられれば十分だ。——迷夢、今のうちさっきの古代魔法を仕切り直せ。最後のチャンスだ」
520: マリス「そんな時間をやるものか。迷夢! お前の目的を諦めると言うのなら、まだ、許してやる。大人しく、古代魔法をひっこめろ」
521: 迷夢「いやよ。今更、そんなわけにはいかない。ここまで来たんだから、最後までやるしかないの。集めたシメオンの魔力をそのまま解放したら、この街が廃虚になってしまうから。それに……、あたしたちの勝手な理由で皆を混乱に陥れる訳にはいかない!」
522: マリス「構うものか」
523: 迷夢「マリス……、昔のキミはそんなんじゃない……」
524: 久須那「マリス……」
525:
526: SE: 弓を引き、矢を射る! ぎゅん!
527:
528: レイヴン「マリスっ!」
529: マリス「久須那ぁ! 決して許さない。もうすぐだというのに。もうすぐ、わたしの望みが叶うというのに! お前ら、わたしの前から消え失せる」
530:
531: SE: マリス、久須那を捕まえて、上空へ
532:
533: マリス「呪いをその身に刻み、永久に虚空を彷徨い続けよ——呪詛!」
534: 久須那「あぐうっ。——は、放せっ! な、何をした?」
535: マリス「……呪いだ。どんな魔法を使ってもそれは解けない」
536: 久須那「——いつの間にそんなものを覚えた」
537: マリス「いつでも。この数ヶ月の間にそんな機会は幾らでもあった。……ありとあらゆる邪魔者を駆除するための手間は惜しまん。——その呪いは一週間以内にわたしが解かねば、お前は死ぬ」
538: 久須那「——そうか……」
539: マリス「死を宣告されたというのに取り乱したりも、落胆したりもしないんだな?」
540: 久須那「何を期待してる? わたしに泣いて詫びでも……命乞いでもして欲しいか?」
541: マリス「くだらない。わたしがそんな詰まらん輩に見えるか」
542: 久須那「いいや」
543:
544: SE: 弓を構える
545:
546:
547:
548:
549:
550:
551:
552:

553: マリス 「……無様だな、久須那」
554: 久須那 「何だろうと、構わない。こうなった以上はお前を阻止する他ないだろう？」
555: 迷夢 「久須那っ！ どうしよう。マリスの呪術って半端じゃないのよ」
556: 久須那 「うろたえるな、迷夢。……すぐには死なないんだろう。なら、やるべきことをする時間
557: はある。お前は自分のやるべきことをやれ。わたしは自分のやるべきことをする」
558: 迷夢 「……うん、——光に住まう闇の言霊。……まだ、いるよね？」
559: 言霊 「……ああ」
560:
561: SE: 何か、目の開くような音。
562: SE: 光の漏れ出すような音。
563:
564: 迷夢 「続きをやるよ。スプールフィールドを解放せよ！」
565: マリス 「させるかあ！」
566: 久須那 「マリス、お前の相手はわたしだ。迷夢に手を出したいのなら、わたしを殺してから行け」
567:
568: SE: イグニスの矢、飛翔。
569:
570: マリス 「殺す？ お前には死ぬよりも酷い目にあってもらわないと、気が済まない！ シールド
571: アップ！」
572: 久須那 「フライングスベル、アクセラレーションっ！」
573: マリス 「ぐあっ！ はあ……っ」
574:
575: SE: シールド形成の音。そして、刺さる。
576:
577: マリス 「貴様あ！ もう、迷夢は後回しでいい。お前が先だ。久須那」
578: 久須那 「そう来なくちゃ、マリスじゃないな。最後の手合わせ願おうか？」
579: マリス 「まだ、生かしておいてもいいと思った。この決着が付けば仲直りできるだろうとどこか
580: で思っていたよ。……呪詛も解いてやろうと……。けど、もう、お前はいらぬ。迷夢も
581: 久須那も、わたしに仇なすものは永遠にわたしに前から消し去ってやる」
582:
583: SE: 矢を引き抜く。
584:
585: マリス 「あぁっ！ ……。久須那……貴様は許さない」
586: 久須那 「何とでも好きなように言ってくれ。マリスが諦めない限り、わたしもやめる訳にはいか
587: ない！」
588: マリス 「そこまですうからには覚悟はいいんだろうな？」
589: 久須那 「そんな馬鹿げた問いを今更するのか？」
590: マリス 「聞きたくないわたしの気持ちも察して欲しいな？」
591: 久須那 「決闘になっても負けない自信があるんだろう？」
592: マリス 「無論だ。片手でも久須那には負けはしない！」
593:
594: SE: マリス、動く。
595:
596: 久須那 「——っ！」
597:
598: SE: 剣と剣が交錯。

599:
600: マリス 「往生際が悪い！」
601: 久須那 「くあっ！」
602:
603: SE: 剣が転がる音。
604:
605: マリス 「拾え……。——拾えと言ってるのが聞こえないのか」
606: 久須那 「拾うの待つ理由など、どこにもないだろう？」
607: マリス 「……！」
608: 久須那 「邪魔なら、さっさと殺せばいい。それが出来ないのなら未練があるのだろう？」
609: マリス 「ほざけ」
610: 久須那 「わたしを殺めたくないんだろう？」
611: マリス 「それはどうかな？ ——命乞いをするのなら、今のうちだ」
612:
613: SE: 剣をふるう。
614:
615: ゼフィ 「久須那！」
616: サスケ 「ゼフィ、待てっ！」
617:
618: □現代。
619: シリア 「ふふ、(切なそうに) ……父上の言ったようにしっかりと修業をしていたら、あんな結果
620: にはならなかったのかもしれないなあ……。……今更、誰に、何かが届く訳でもないんだ
621: けどさ……」